



静岡県立駿河総合高等学校

ここから未来は生まれり

静岡県総合学科高等学校

地域学充実事業成果



ユネスコスクール

静岡県立駿河総合高等学校

夢を仰ぎて己を信ず **2024**

静岡県立駿河総合高等学校

ここから未来は生まれり



現状把握、分析力

論理的思考力

ここから未来は生まれり

夢を仰ぎて己を信ず



傾聴力・協働力

共生共育

興味、関心力

SDGs宣言校

駿河総合高校スクール・ポリシー

◆ グラデュエーション・ポリシー（高校卒業後の姿）

- 1 多様な学びを通して、自ら問いを立て探究できる。
- 2 自己と他者を尊重し、主体的・協働的にやり抜く力を身に付ける。
- 3 論理的に考えながら社会に参画し、貢献する。

◆ アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

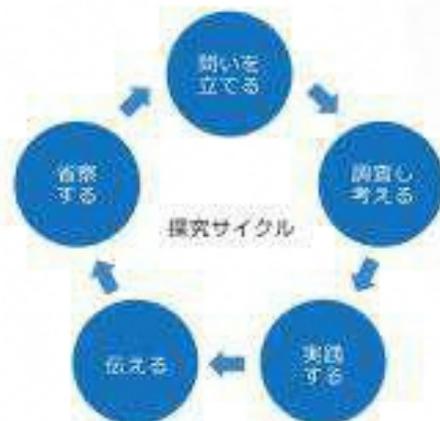
- 1 興味関心力が高く、情報を取捨選択できる生徒。
- 2 自己と他者の在り方を認め、主体的に行動ができる生徒。
- 3 持続可能な社会に向け、未来を考えることができる生徒。

グローバル化や少子高齢化など急速に進展するこれからの社会では、課題解決力、コミュニケーション力、表現力等の力が求められています。本校では、課題解決型学習である探究学習（総合的な探究の時間）やキャリア教育（産業社会と人間）を通して、これからの社会を生き抜く力の育成を目指しています。今後の大学入試、就職試験にも対応する学習プログラムです。



【探究的な学習】 総合的な探究の時間

3つの単元で構成され、自ら課題を発見し関連する情報を収集し、その情報を整理・分析して、明らかになった考えをまとめ・表現する、チームによる課題解決的な学びが繰り返される学習です。学年を重ねるごとに活動が発展するように構成されています。



第3単元「未来スピーチ」

- 3年間の学習を振り返り、そこでの気づきや自らの成長を自覚し、将来との繋がりを意識したスピーチの作成を通して、進路意識を高める。

2年次

第2単元「地域コミュニティプロジェクト」

- これまで身につけた力を活用して、自分自身で設定したテーマを探究することで、社会問題や自分の将来についての視野を広げる。

1年次

1年次生 第1単元「研究論文」
課題解決スキルの習得

2年次生 第2単元「地域防災コミュニティプロジェクト」
地域と協働実践

3年次生 第3単元「未来スピーチ」
メタ認知と未来創造

第1単元「研究論文」

- 研究論文作成を通して、課題設定・仮説立証・まとめる・表現する振り返るといった探究スキルを身につける。





教育目標：適切な判断力を持ち、個性を確立すると共に、他者と協働し主体的に社会の持続可能な発展に貢献する人を育てる。

1年次	2年次	3年次
-----	-----	-----

静岡県立駿河総合高等学校 カリキュラムマネジメント

単元目標	発想を習得する	目標設定ができる	多面的論理的に考えることができる	自ら問いを立て解決策を打ち出すことができる	積み上げたメタ認知を捉え、未来に繋げることができる
------	---------	----------	------------------	-----------------------	---------------------------

往還の連続 : 個人⇔協働 具体⇔抽象 教科⇔現実社会 学校での学び⇔校外での学び 理論⇔実践⇔振り返り

- 【系列】
- 人文社会
 - 自然科学
 - ビジネス度総合
 - 生活文化
 - デザイン
 - ものづくり総合

つけたい力
つける力



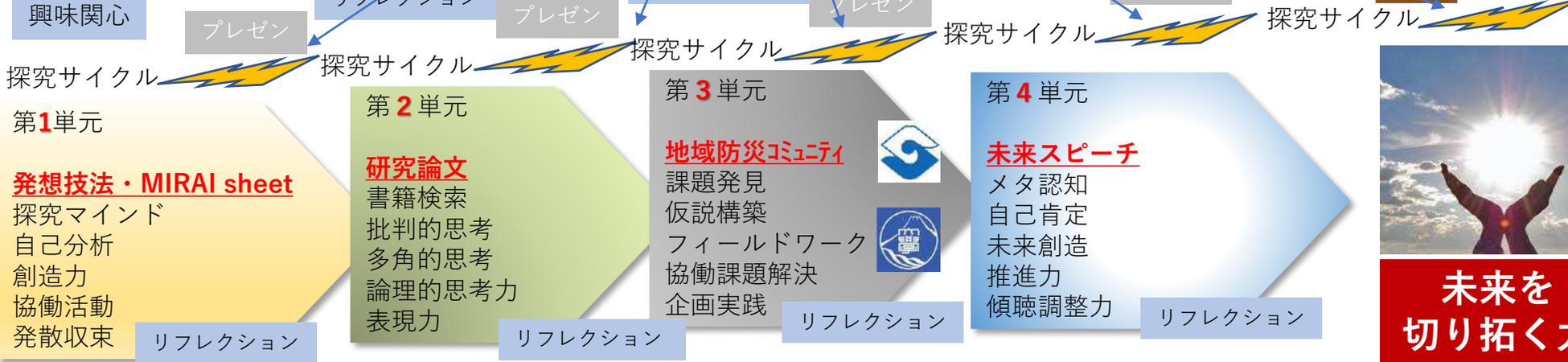
振り返りを繰り返しながら、**メタ認知**を積み上げる

振り返りを繰り返しながら、**メタ認知**を積み上げる

学び続ける原動力 Ⅱ 主体性

グランドルール
自由奔放
質より量
批判厳禁
便乗発展

総合的な探究の時間



「地域防災コミュニティプロジェクト」

2年次生 「総合的な探究の時間」での取り組み

～多様な価値観で、まちの未来創造を地域とともに～

2023年のチャレンジ！ ～目的・概要～

・防災の取り組みを持続可能にするために、全校生徒に広げたい。



・コロナ禍だからこそ、地域との繋がりを深め、学校外のフィールドで学んでほしい。



2年生240人を地域に出し、防災を切り口に、地域課題の解決を考える探究活動ができないか？ 防災を通して、地域課題を自分ごとにできないか？



相談・協力要請

駿河区役所 地域総務課

「高校単位で防災に取り組む活動はレア」

静岡大学教育学部 藤井基貴先生
(防災教育・防災道徳)

「アウトプットベースではなく、アクションベースで」
(調べて発表) (やる・作る)

「地域防災コミュニティプロジェクト」のスタート

地域 防災 コミュニティ プロジェクト	に飛び出して を切り口に を作り出す 探究活動
------------------------------	----------------------------------

高校生ができることを
やってみよう！ 創ってみよう！

愛を持って社会に踏み込もう！

社会を1mm動かそう！

- ・2年次生 235名
- ・総合的な探究の時間（週1時間 年間35時間）
- ・地域連携（フィールドワーク）先 静岡市役所を含む13団体

プロジェクトのねらい ～防災「で」、地域課題を学ぶ～

- 1 地域防災（静岡市もしくは駿河区）を学ぶことで地域の困りごとを自分ごととし、「愛郷心」・「市民性」を育む。
- 2 防災活動を通じて高校生ができることを探究し、「地域貢献」を実際に行う。
- 3 防災啓発活動を通じ、様々な「コミュニティの形成・醸成」を推進する。
- 4 これからの「社会で必要な力（非認知能力）」を身につける。

兵庫県立舞子高等学校環境防災科の立ち上げ
「防災の専門家ではなく、市民リーダーを育てる」

（兵庫県立大学 客員教授 諏訪清二先生）

災害＝自然現象の加害力×社会の脆弱性

（独立行政法人教職員支援機構
助教 吉田尚史氏）

地域の連携（フィールドワーク）先とチーム分け 2023年

連携先	行政	チーム数 (人数)	連携先	外国人	チーム数 (人数)
静岡市役所 危機管理総室		5チーム (20人)	静岡大学国際連携推進機構		2チーム (8人)
静岡県 危機管理部		5チーム (20人)	静岡県地域外交局		5チーム (20人)
3地区自治会	市民	15チーム (60人)	静岡大学藤井ゼミ	水災害	3チーム (12人)
トヨタユナイテッド	民間企業	5チーム (20人)	久能の里	高齢者	5チーム (20人)
(株)中部電力パワーグリッド		5チーム (20人)	子育て支援センターよしよし		5チーム (20人)
静岡市女性会館	ジェンダー	5チーム (20人)		子ども	計 60チーム (240人)

- ・1チーム4人
- ・どのチームに属するかは、生徒個々の希望をとって調整（1クラス2テーマ）
- ・ペルソナを設定し4か月にわたる調査、1か月間の実践

「IoT」の活用 2023年

チームで情報共有・情報発信



リクルート

マイページ

お問い合わせ

資料請求



製品・サービス

| ICTの活用

| サポート

| イベント・セミナー

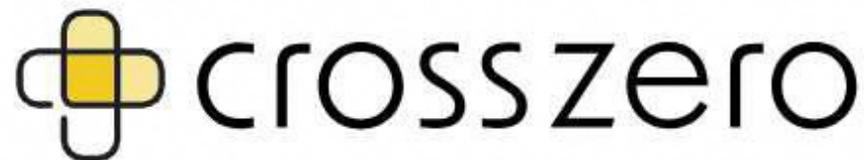
| ブログ

| 会社情報

What's



ブランドサイト



安否確認・防災・備災サービス クロスゼロ

プロジェクトの1年間の流れ

- 4月 プロジェクトのガイダンス
- 5月 講義 3回 ★静岡市危機管理総室
- 6月 チーム決め
フィールドワーク 事前調査
- 7月 中間発表 I (企画書)
- 8月 夏休み活動 本調査
- 9月 本調査
- 10月 本調査報告会 ★連携先来校
- 11月 実践報告会 ★連携先来校
- 12月 最終発表 (気づきと展望) ★連携先来校
※1月31日全校発表 (他学年共有)

インプット (情報収集)



アクション (課題解決)

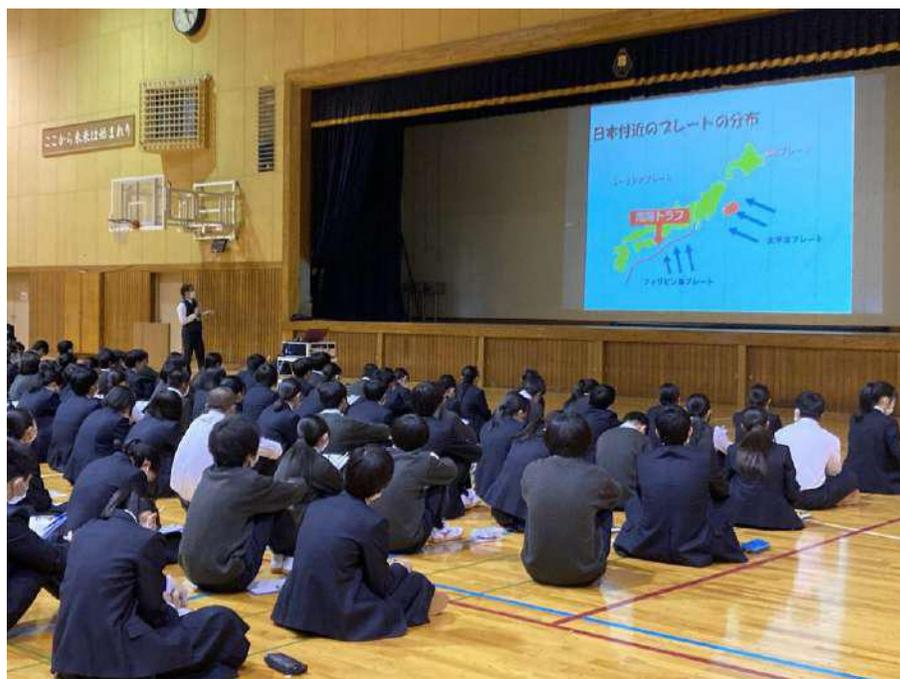


アウトプット (意味付け)

5月 防災講座 静岡市危機管理総室

インプット（情報収集）

- 1回目 静岡市の現状把握と状況分析
- 2回目 公助・共助・自助について
- 3回目 ハザードマップと避難場所とは



6月 フィールドワーク 静岡大学藤井ゼミの学生と学ぶ



7月 中間発表会 I (企画書)

フィールドワークで感じたこと、考えたことをもとに、企画書（5W2Hシート）を作り、発表した。



アクション（課題解決）

総合的な探究の時間

「地域コミュニティ防災探究」企画書 5W2Hシート

WHO 誰のために？ ←	←
具体的な対象者を記入 ←	
WHY なぜ？ ←	←
なぜ、その対象者のためにやるのか？ その対象者が抱える具体的な困りごとや課題は？ ←	
WHAT 何をするのか？ ←	←
具体的な提案プランを記入 ←	
WHEN いつ実施する？ ←	←
具体的な日程・時間等の案を記入 ←	
WHERE どこで？ ←	←
具体的な場所の案を記入 ←	
HOW MANY どのくらい？ ←	←
何人ぐらいに？何回実施するのか？	
HOW MUCH いくら？ ←	←
準備物や想定される費用は？ ←	
！（効果は？） ←	←
実施した場合、どのような効果があらわれるか。その状況をできるだけ具体的にイメージする。 ←	
夏休み中の活動計画 ←	←
個人あるいはグループで準備、活動する内容を具体的に記入 ←	

7月21日に、市役所やフィールドワーク先、静岡大学の皆さんに提案します。それまでに、完成させること。 ←

チーム活動一覽

チーム活動内容一覽

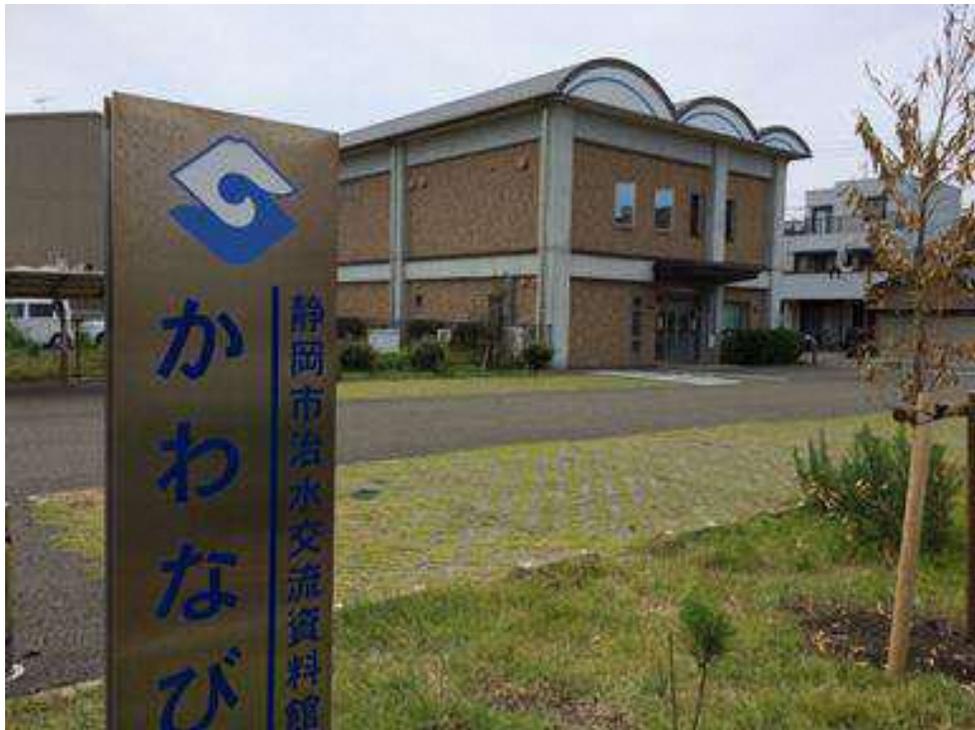
	班	アクション内容
静岡市役所	1	ペット連れ避難マニュアルのポスターを作成する。学校近くのペットショップにポスターを貼り、見てくださった人にインタビューを行う。
	2	災害が起きる前と起きた後にとるべき行動がわかるポスターを作成する。
	3	静岡の観光名所(三保、駿府城、久能東照宮)の避難場所を現地調査し、海外からの観光客のための観光防災マップを作る。
	4	災害時に子どもが集まれるスペースをつくる。災害時に子どもたちと遊んでくれるボランティア募集のポスターを作り、校内に貼る。
	5	妊婦さんが災害時に取るべき行動や必要なものなど紹介するポスターを作成した。
駿河消防署	1	各家庭で室内報知器を設置しているかどうかのアンケートを回覧板で実施した。
	2	防災倉庫の確認をした。疾病者の搬送、応急手当の仕方を説明したチラシを作成した。有東地区へ配布する。
	3	火災報知器設置率を上げるためのポスターを作り配布する。
	4	包帯の巻き方や人の運び方のポスターを作り、高校付近の地域に配布する。
	5	火災警報器設置率を上げるためのチラシを自分の住んでいる地域に配布する
静岡市女性会館(ジェンダー)	1	安心安全な避難所運営を呼びかけるポスターを作成した。
	2	ジェンダーに関するクイズブックを作成した。女性会館1冊、学年に1冊置いてもらう。
	3	ジェンダー、男女理解のための調査をし、まとめた。
	4	女性や子供の視点から考えた防災や避難所での対策について、川柳にして紹介する。
	5	避難所で遊べるおもちゃ(カルタ)をつくった。
	6	避難所で遊べるぬいぐるみ(ブランケット、懐中電灯収納可)をつくった。
	7	駿河総合2年生へ防災意識アンケートを実施した。SNSにあげる。
	8	女子高生向けの防災ポーチを提案した。
	9	災害時におけるジェンダー問題を知ってもらうポスターを作成し、市内各所(豊田中学、静岡大学、南部体育館など)に貼った。
	10	性差による偏見をなくすために高校生男女へ「得意なこと」「災害時に活躍できる仕事」のアンケートを実施し、tik tok に投稿した。
自治会・登呂	1	登呂地区の子ども関連施設に向けて、散歩中に地震が起こったらどう行動したらよいかの紙芝居を作る。
	2	富士見地区の防災マップを作った。防災マップを自治会や小学校に配る。
	3	マンションの上層階に住む高齢者の降ろし方(車いす、シーツを利用)をまとめ、パンフレットにして広める
	4	防災倉庫と第一避難場所の確認。防災シートを公民館に掲示する。
	5	避難経路の清掃活動をした。
自治会・有東	1	有東地区の避難場所を確認した。見やすい避難マップを作り、有東地区に配布する。
	2	高齢者の立ち寄り処「なごみ」を紹介するポスターを駿河総合高校内に掲示した。
	3	カリタス1班とUSと一緒に、放課後デイサービスで「防災カフェ」を実施し、防災に関する豆知識や新聞スリッパの作成をした。
	4	高齢者が家でできる簡単なストレッチのポスターを作成し、有東団地に貼る。
	5	階段の昇り降りや避難グッズを紹介するポスターを作成した。衛生写真を使って、有東団地の分かりやすい避難地図を作成した。

アクション (課題解決)

国際交流協定会	1	日本の住んでいる外国人向けの災害情報インスタを開設した。
	2	外国人向けの災害クイズをカフート(アプリ名)内に作った。最終確認してネットにあげる
	3	やさしい日本語の災害時リーフレットを作成し、市役所(静岡市国際交流協会)に設置する。
	4	災害時によく使われる日本語15種類をやさしい日本語に変換した動画を作り、You tube にあげた。
	5	静岡市危機管理総室の方にインタビューし、外国人向けの防災インスタを開設して情報発信をした。
静岡ムスリムスリ	1	イスラム文化マシドの使い方を知ってもらうためのポスターを制作し、掲示する。
	2	ムスリム子ども会で防災の遊びをする。
	3	アラビア語で避難経路などのポスターを作り、マシドに掲示する予定だったが、中田地区の清掃活動をした。
	4	ムスリム子ども会と女子会に参加し、ハラルクッキーのプレゼントをしたり、女性に困りごとをインタビューした。インスタを開設する
	5	ハラルチャリティボックス(食べ物、文房具など)を校内で募り、マシドに寄付した。ムスリム子ども会で防災おにごっこを実施した。
子育て支援	1	赤ちゃん用防災バッグの紹介をする冊子をつくり、子育て支援センターに寄付をした。
	2	災害時に赤ちゃんを安全に運べるベビーバスケットを紹介するポスターを作成した。
	3	災害時に「軽くて場所をとらないおもちゃ」を年齢別に考案・作成し、説明書をつけて子育て支援センターに寄付した。
	4	「キラキラJK 防災サポーター」のインスタ開設し、防災情報を発信した。子育て支援センターでインスタ説明会とインタビューをした。
	5	災害時子育て家庭を支援できるための赤ちゃん基礎知識を記載した冊子を作成した。簡易おむつの作り方ポスターも作成した。
野外保育ゆたか	1	生徒対象に災害時のトイレ講座を企画した。竹チップ以外に消臭効果のある木を検証した。インスタ開設で災害時の状況を発信する。
	2	災害時のごはんの作り方(バッククッキング)の動画を作成した。
	3	トイレ問題についてと簡易トイレの作り方を動画にした。SNS で動画を配信する。
	4	災害時なるべく白米を消費せずに満腹感を得るメニューを考え、試作した。栄養バランスも整えた。
	5	SDGsイベントで、「防災×トイレ」のポスターを掲示した。11月26日のイベントで、アンケート調査を実施する。
カリタス有東	1	有東3班と一緒に、高齢者と小学生向け「するそうカフェ」を開催した。(防災講座、新聞スリッパ、牛乳パックホイッスル作成体験)
	2	カリタス有東の利用者さんに「防災宣言シート」(避難経路、意識する点、自宅からの避難場所の確認)を作ってもらった。
	3	ユニバーサルデザインの勉強を生かして、高齢者視野メガネを作成し、見やすい張り紙を考えた。
	4	8月と9月に防災バックと防災ハックの講座をカリタス有東で実施した。高齢者向け防災バックを提案した。
	5	高齢者のための「防災駅伝」を考えた。実施して改善点を見つける。
中部電力	1	専用の twitter アカウントを開設し、アプリ普及のためのツイートをした。CM で宣伝した。
	2	アプリ名の変更(断念)。12月下旬に第一テレビの「Dstyle」番組で自分たちの活動やアプリの紹介をする。
	3	防災イベントを実施する。SBS テレビ「Sole いいね」の中で CM 宣伝した。12月に SBS のニュース番組でアプリを紹介する。
	4	11月11日に行われる駿河総合高校の防災訓練で、2年生にアプリを紹介した。
	5	11月9日に街中で、アプリ QR コード付きのティッシュとマスクを配布した。

かわなびで防減災イベント開催

- ・イベントを通じて水災害について学んでもらうことが目的
- ・近隣小学校にチラシを配布し集客、企画運営



かわなびで防減災イベント開催

- ・イベントを通じて水災害について学んでもらうことが目的
- ・近隣小学校にチラシを配布し集客、企画運営



11月 中間発表会Ⅱ（成果と仮説）

内容：活動報告と、仮説の検証

発表方法：スライド発表

連携先からのフィードバック →



2年次 地域防災コミュニティプロジェクト探究 中間発表会Ⅱ フィードバック表

本日はお忙しい中、中間発表会Ⅱにご参加いただき、ありがとうございます。
今後は12月の最終発表（活動の学びと今後の展望）にむけて、活動のまとめを行っていきます。
発表へのフィードバックをいただけるとありがたいです。

お名前 (ゆにが)

1) 班

臭いの検証をするのが難しかったようで、その中でも工夫して色々試したことがよく分かりました。
SNS等の情報発信は、雨混雑の状況を想定して準備して下さい。

2) 班

楽しい防災の事を考える様子がとてもよかったです。
動画の中に、自分達の考えたこと、感じたことを盛り込めるとオリジナリティがでると思います。高校生が作ったアピールもぜひ!

3) 班

多くの人が「災害時トイレで困ることを克服せよ」という部分の文章がとても良かったので、ぜひアニメーションなどを追加して、^{オムツや}衛生用品をアップして下さい。凝固剤の代用品も提言できるといいですね。^{生理用品}

4) 班

健康面も考慮したレビビ楽しみです。
災害時、どんな栄養素が不足しがちかを調べてみる。より意義のあるものになると思います。

5) 班

こちらからの情報発信が、来場者の学びだけでなく「気づき」につながることがとても大切だと思います。
ぜひ多くの人に声をかけて、沢山の人の話を聞けるといいですね。

全体を通してのご意見、アドバイスがあればご記入ください。

皆さん、時間のなか、工夫してうまくまとめているとおられてると思います。前回の発表では、どうなるのか、とちょっと心配していましたが、それぞれのグループで、形になってきているようで本当に良かったです。引き続きがんばって下さい!

お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

1月 最終発表会Ⅱ（今後の展望）

内容：活動を通して学んだこと、今後の展望

発表方法：第1部 60チームのポスターセッション

第2部 学年代表4チームの発表

全体講評（静岡市など連携先より）



1月 最終発表会Ⅱ（今後の展望）

アウトプット（意味付け）

13協働先の方からフィードバックをいただきました。

- ・「今回のような高校生の活動を是非継続して欲しい。」
- ・「主体的に活動できていて大変良かった。」
- ・「地域に高校生が来てくれることは嬉しい。」
- ・「地域では、高校生の力が必要である。」



成果として得たこと

個々の生徒

- 授業を飛び出し、自主的な活動ができたこと。
- アクションを起こすことで「自分たちにできることがある」と実感できたこと。
- 防災減災の取り組みを地域に発信できたこと。
- 防災を通じて、地域の人々とのつながりが生まれたこと。
- 結果として、防災減災の知識・技術が身に付いたこと。

全体として

- 学年全員で取り組んだことで、防災減災意識をボトムアップできたこと。
- 長期的に学習・実践したことや連携先と協働できたことで、地域の繋がりや新たなコミュニティが生まれたこと。

全体の反省・課題

- 13か所のフィールドワーク先との連絡調整や内容の企画に苦勞したが、ねらいを共有し、連携先の多大なるご協力とご尽力のおかげで、有意義な活動になった。
- 60チームが同時進行で活動したため、その把握や伴走が難しかったが、協働先のサポートのおかげでチーム個々への適切な支援・助言を得られた。
- 効果的な活動にするためには、情報収集・分析、文献調査の質の向上。
- 生徒が自主的に校外へ出る際の仕組みづくり。
- 持続可能にするための工夫。

今後の活動予定

- 持続可能な活動にするために、
 - ① 連携先との継続的な関係づくり。
 - ② 校内の組織・体制づくり。（担当部署と学年部の連携）
 - ③ カリキュラムマネジメント（総探と各教科の往還）の継続。
 - ④ 先輩から後輩へ伝承する仕組みづくり。
 - ⑤ 自走する生徒の支援をしていく。

